令和７年度　全国学力・学習状況調査

富良野市における調査結果の概要

令和７年９月　富良野市学力向上推進プロジェクト

令和７年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、第１次富良野市教育振興基本計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く　心豊かでたくましい人を育む」のもと、教育の原点である知・徳・体の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に「すべては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、今後の本市の教育施策や学校の取組に生かしながら、本市教育を一層充実させてまいります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

今後も、これまでの取組の成果を生かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部分であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながることのないよう御理解をお願いいたします。

１　調査の概要

◆調査の目的

○　**義務教育の機会均等**とその**水準の維持向上**の観点から、**全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析**し、**教育施策の成果と課題を検証**し、その改善を図る

○　**学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等**に役立てる

○　以上のような取組を通じて、**教育に関する継続的な検証改善サイクル**を確立する

◆調査日

令和７年４月17日（木）

◆調査の対象

小学校第６学年、中学校第３学年

◆調査事項

○　児童生徒：教科調査(国語、算数・数学、理科)、質問調査

○　学　　校：質問調査

◆調査内容

・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

◆今年度の調査の特徴

・中学校理科は、文部科学省ＣＢＴシステムによるオンライン方式により実施。

2　教科に関する調査結果の概要について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、「平均正答率を全国平均以上にする」ことを目標に掲げております。

【小学校】※　**同等－全国平均正答率との差が－（マイナス）３ポイント以内**

○　国語は、全国平均正答率と同等の結果でした。

○　算数は、全国平均正答率と同等の結果でした。

○　理科は、全国平均正答率を上回る結果でした。

【中学校】※　**同等－全国平均正答率との差が－（マイナス）３ポイント以内**

○　国語は、全国平均正答率を上回る結果でした。

○　数学は、全国平均正答率と同等の結果でした。

○　理科は、平均ＩＲＴスコア（500 が基準）において、全国を上回る結果でした。

※　この結果につきましては、以下の取組による成果であると考えられます。

＜富良野市としての取組＞

・道教委事業（授業改善推進チーム活用事業【令和２～４年度】・新しいかたちの学びの授業力向上推進事業【令和５年度～】）による小学校のＴＴ指導、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
・記述力向上に向け、大学教授を招聘した研修会の実施
・義務教育指導監の学校経営指導訪問における組織力向上に向けた指導助言
・教育局指導主事の学校教育指導訪問における各学校の校内研修等の充実に向けた指導助言
・教職員の加配による指導方法工夫改善の取組
・小規模校での個別最適化された学びの充実
・長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着
・ＩＣＴ支援員の巡回による各学校のニーズに応じたＩＣＴに係る校内研修の推進
・学校司書の配置による読書活動の推進
・特別支援教育支援員の配置

この調査結果を踏まえ、『第１次富良野市教育振興基本計画(令和５年度～令和７年度)』を基軸とし、学力向上に向けた質の高い教育活動が展開できるよう推進していきます。

『第１次富良野市教育振興基本計画(令和３～７年度)』

第１次富良野市教育振興基本計画(令和３年度～令和７年度)は、「自立と共生の未来を拓く　心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。

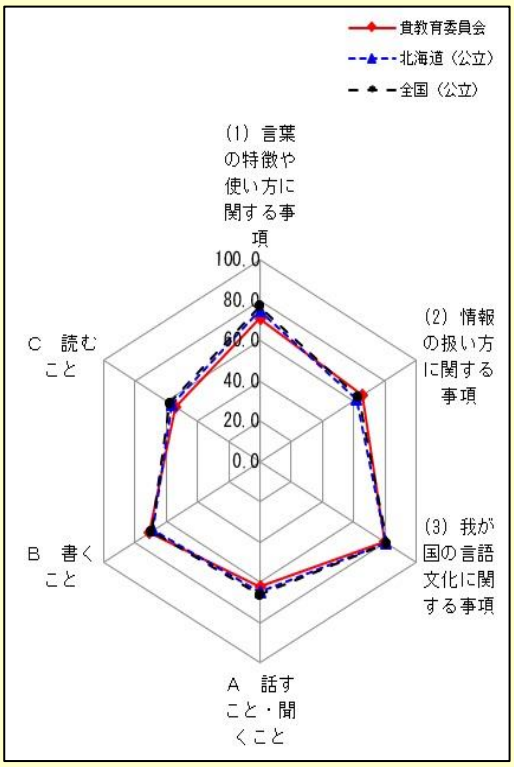
子どもたちに変化の激しい時代を生き抜く力を育み、生涯にわたって活躍できる人材を育成することが求められていることから、第１次富良野市教育振興基本計画を策定しました。

3　各教科の領域別の状況

◇…比較的できている点◆…課題のある点

小学校国語

※　全国、全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

◇　**書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができている。**

◇　**情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。**

◆　**事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られる。【３二（２）】**

◆　**目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られる。【３三（１）】**

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

「読むこと」【３二（２）】

◆　**事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られる。**

【資料３】を読み、「とても」という言葉の変化について、叙述を基に、「時代とともに言葉の意味が変わる」ということを捉えることが求められています。

(2)【木村さんのメモ】の［イ］に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料３】を読み、次の１から４までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　時代とともに言葉の意味が変わる。
2　時代とともにものの使い方が変わる。
3　世代によってものの呼び方がちがう。
4　世代によって言葉の使い方は変わらない。

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

（奈良時代）あらたし →［ア］→（平安時代）あたらしい

［時代とともに言葉の形が変わる。］

とてもできる？できない？

（室町時代）どうせ →（大正時代より前）どうしても、とうてい →（今）非常に

［イ］

指導改善のポイント

文章全体の構成を捉えて要旨を把握するためには、**叙述を基に、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかなどに着目できるよう指導する**ことが重要です。

「読むこと」【３三（１）】

◆　**目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られる。**

【資料１】に書かれていることと、【資料４】に書かれていることを結びつけて捉えることが求められます。

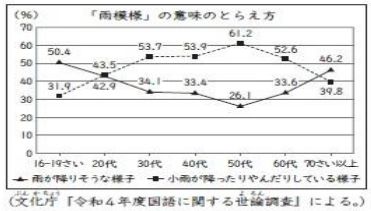
1　この本を読むとお気づきになると思いますが

2　「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。

3　コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

4　「言葉は生きている」とも言われます。

【資料４】



（文化庁『令和４年度国語に関する世論調査』による。）

田中さん：私は、この資料（【資料４】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがあることが分かるでしょ。

木村さん：本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

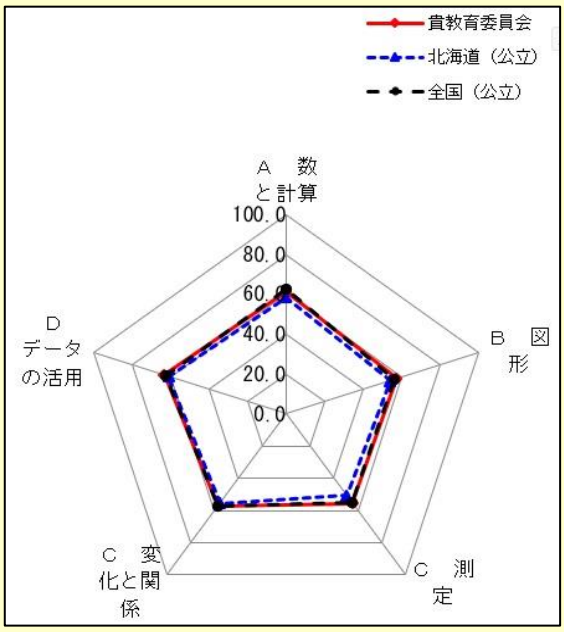
田中さん：こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料１】に「　A　」と書かれているとおりだと思うよ。

指導改善のポイント

文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けるためには、**文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることができるよう指導する**ことが重要です。

小学校算数

※　全国、全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

◇　**台形の意味や性質について理解している。**

◇　**小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができている。**

◇　**示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができている。**

◆　**異分母の分数の加法の計算をすることに課題が見られる。【３（４）】**

◆　**分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。【３（２）】**

◆　**棒グラフから、項目間の関係を読み取ることに課題が見られる。【１（１）】**

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

数と計算【３（４）】

◆　**異分母の分数の加法の計算をすることに課題が見られる。**

（4）　$\frac{1}{2}+\frac{1}{3}$　を計算しましょう。

正答　$\frac{5}{6}$

$\frac{1}{2}$と$\frac{1}{3}$の分母の最小公倍数である６を用いて通分し、$\frac{3}{6}+\frac{2}{6}$を計算する必要があります。

指導改善のポイント

通分することによって、**単位分数の個数に着目して計算の仕方を考え出すことができるように指導する**ことが重要です。

数と計算【3（2）】

◆　**分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。**

次に、ひろとさんは、$\frac{3}{4}+\frac{2}{3}$ について考えています。

ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、$\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4}+\frac{2}{3}$ についても、**もとにする数**を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、$\frac{3}{4}$ はその数の何個分、$\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

指導改善のポイント

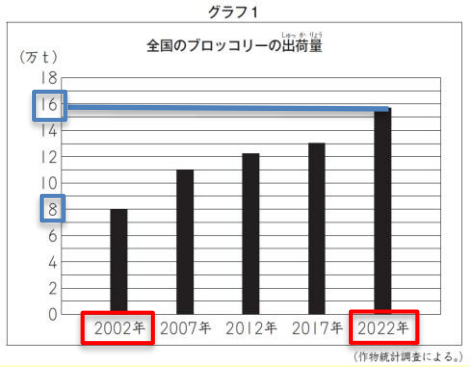
分数の加法について、**数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるよう指導する**ことが重要です。

① $\frac{3}{4}$と$\frac{2}{3}$に共通する単位分数として、$\frac{1}{12}$であることを理解

② $\frac{3}{4}$と$\frac{2}{3}$が、それぞれ共通する単位分数（$\frac{1}{12}$）のいくつ分かを理解

数と計算【1（1）】

◆　**棒グラフから、項目間の関係を読み取ることに課題が見られる。**



グラフ1からわかることを、次のようにまとめます。

2022 年の全国のブロッコリーの出荷量は、2002 年の出荷量の約 ㋐ 倍になっています。

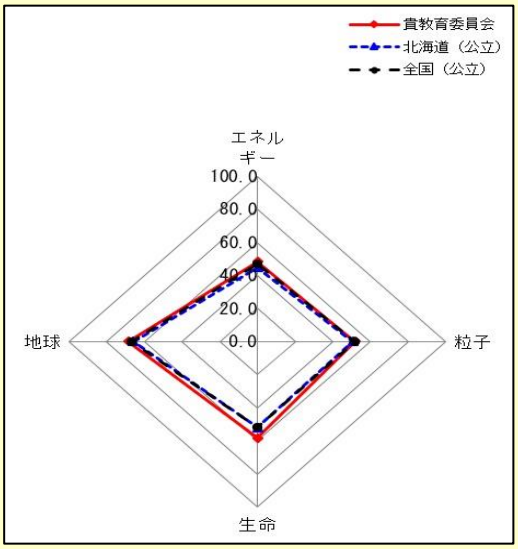
＜正答＞
2 倍

指導改善のポイント

グラフから、**目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えることができるよう指導する**ことが重要です。

小学校理科

※　全国、全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

◇　**発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができている。**

◇　**水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができている。**

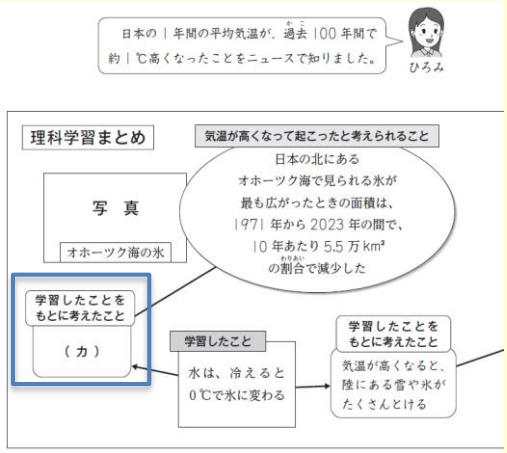
◆　**水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することに課題が見られる。【4（3）カ】**

◆　**水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することに課題が見られる。【4（2）イウ】**

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

粒子【４（３）カ】

◆　水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することに課題が見られる。



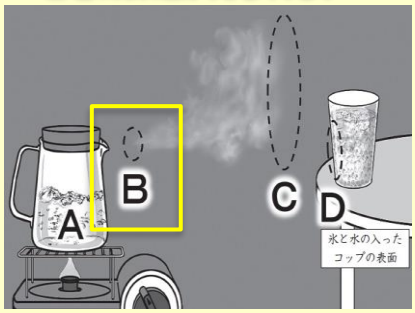
1　海水は、温まると水と同じように体積が増える
2　海の氷は、平均気温が高くなるとできにくくなる
3　水は、高い場所から低い場所へと流れる
4　水は、氷になるとき体積が増える

指導改善のポイント

「理科で学習したこと」を根拠に、「学習したことをもとに考えたこと」について思考し、表現するために、**習得した知識を他の学習や生活と関連付けて知識を身に付けられるよう指導する**ことが重要です。

粒子【４（２）イウ】

◆　水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することに課題が見られる。



Ｃで、湯気は（イ）て、（ウ）になっている。

（イ）
1　蒸発し
2　ふっとうし
3　温められ

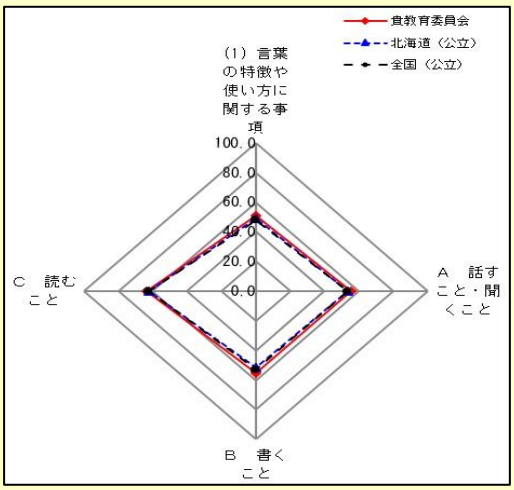
（ウ）
4　水蒸気
5　液体の水
6　氷

指導改善のポイント

水の蒸発について、**温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解し表現できるよう指導する**ことが重要です。

中学校国語

※　全国、全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



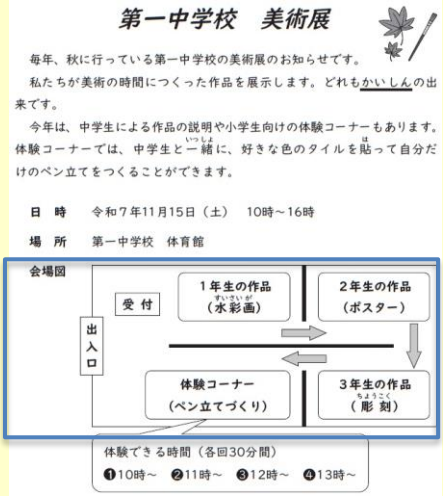
〈調査結果のポイント〉

◇　読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができている。
◇　資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができている。
◆　目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題が見られる。【１二】
◆　資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。【２四】

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

「書くこと」【１二】

◆　**目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題が見られる。**



第一中学校　美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日　時　令和７年11月15日（土）　10時～16時
場　所　第一中学校　体育館
会場図

二　中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の１から４までのうち、最も適切なものを１つ選びなさい。

1　小学校６年生に向けたちらしであることを示すため。
2　ウェブページの情報と比較しやすくするため。
3　会場となる体育館まで迷わずに来てもらうため。
4　展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

対象（第６学年）に対して、明確な目的（美術展の様子を具体的にイメージできるようにするため）を捉える。

指導改善のポイント

何のために、誰に対して、どのような意図をもって書くのかなどを具体的に考えさせるなど、書く目的を明確にして指導することが重要です。

「話すこと・聞くこと」【２四】

◆　**資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。**

四　村田さんは、【村田さんのスピーチ】の［　　］の内容をより分かりやすく伝えるために、〈スライド⑤〉を工夫したいと考え、あなたに助言を求めています。あなたなら、どのような助言をしますか。あとの〔工夫の仕方〕のＡからＣまでの中から１つ選び（どの〔工夫の仕方〕を選んでもかまいません。）、条件１と条件２にしたがって、村田さんへの助言を書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【村田さんのスピーチ】の［　　］

今行っている活動を工夫することで、私たちのマリーゴールドと、花を育てる楽しみが地域にも広がります。学校と地域が、マリーゴールドでつながったら、すてきだと思いませんか。

〈スライド⑤〉

〔工夫の仕方〕

Ａ　〈スライド⑤〉に、言葉を加える。
Ｂ　〈スライド⑤〉のイラストを修正したり、イラストを付け加えたりする。
Ｃ　ＡとＢとを組み合わせる。

条件１：選んだ［工夫の仕方］について、どのように工夫するかを、具体的に書くこと
条件２：条件１で工夫したことにより、どのように分かりやすくなるかについて具体的に取り上げて書くこと

＜正答の条件＞
①　［工夫の仕方］のＡ・Ｂ・Ｃのいずれか一つを選んで、記号を塗りつぶしている。
②　選んだ［工夫の仕方］について、どのように工夫するかを具体的に書いている。
③　工夫することで、どのように分かりやすくなるかを書いている。
④　③について［　　］の内容を適切に取り上げている。

＜正答例＞
スライドの下の余白に、「花を育てる楽しみを地域へ」と書き加える。そうすることで、花を育てる楽しみが地域にも広がることが強調されて伝わりやすくなる。

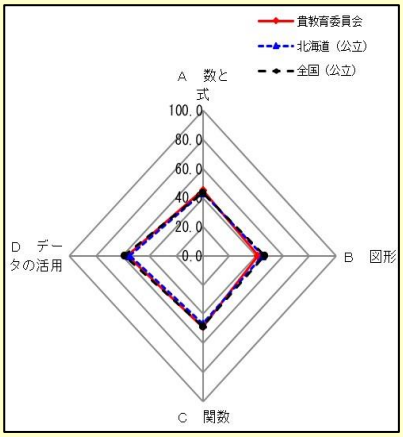
正答の条件②　正答の条件③　正答の条件④

指導改善のポイント

目的や状況、相手に応じて、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、話し手の考えが正確に伝わり、聞き手の理解をより深めることができるよう指導することが重要です。

中学校数学

※　全国、全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

◇　素数の意味を理解することができている。

◇　一次関数ｙ＝ａｘ＋ｂについて、変化の割合を基に、ｘの増加量に対するｙの増加量を求めることができている。

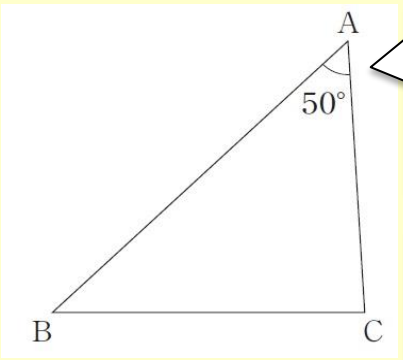
◆　多角形の外角の意味を理解することに課題が見られる。【３】

◆　目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られる。【６（３）】

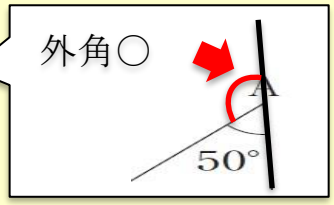
●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

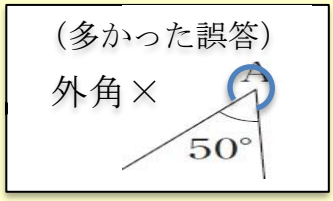
「図形」【３】

◆　多角形の外角の意味を理解することに課題が見られる。



＜正答＞　130°





指導改善のポイント

○　**外角とその和の意味を理解**し、多角形の内角の和などに基づいて、その和を求めることができるよう指導することが重要です。

・一つの頂点における内角と外角の和が、180°であること

・ｎ角形の内角の和に基づくなどして、ｎ角形の外角の和 360°を求めること

「数と式」【６（３）】

◆　目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られる。

＜予想＞　連続する３つの３の倍数の和は、９の倍数になる。

$3n+(3n+3)+(3n+6)$
$=$

＜正答の条件＞

①　９（ｎ＋１）と計算している場合

・ｎ＋１は整数だから、

・９（ｎ＋１）は９の倍数である。

の２点を記述

＜正答の条件＞

②　９ｎ＋９と計算している場合

・９ｎ、９が９の倍数で、９の倍数の和は９の倍数だから、

・９ｎ＋９は９の倍数である。

の２点を記述

指導改善のポイント

○　**文字を用いた式を活用して、数量や数量関係を簡潔に表現できるよう指導する**ことが重要です。

中学校理科

〈調査結果のポイント〉

◇　仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができている。

◇　スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現することができている。

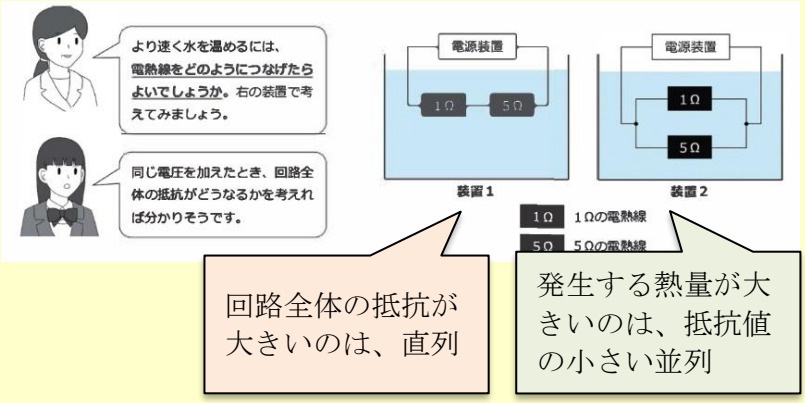
◆　電熱線で水を温める場面における回路の電流・電圧と抵抗や熱量について理解することに課題が見られる。【１（１）】

◆　気圧に関する身近な事象について、気圧の知識を概念的に理解することに課題が見られる。【９（２）】

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

「エネルギー」【１（１）】

◆　**電熱線で水を温める場面における回路の電流・電圧と抵抗や熱量について理解することに課題が見られる。**



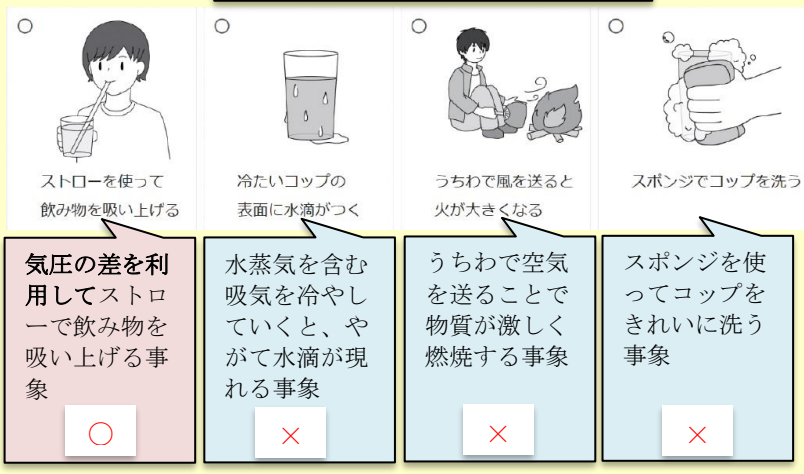
指導改善のポイント

身の回りのものに電流を流す実験を行い、**電力の違いによって発生する熱や光、音などの量や強さ、他の物体に及ぼす影響の程度に違いがあることを見いだして理解することができるよう指導する**ことが重要です。

「地球」【９（２）】

◆　**気圧に関する身近な事象について、気圧の知識を概念的に理解することに課題が見られる。**

気圧を利用している事象は？



指導改善のポイント

身の回りの気圧に関係する事象について、**科学的に探究する学習場面を設定したり、探究の過程を通じて、身近な生活にどのようにつながっているのか等に着目した振り返りを位置付けたりして、概念的に理解することができるよう指導する**ことが重要です。

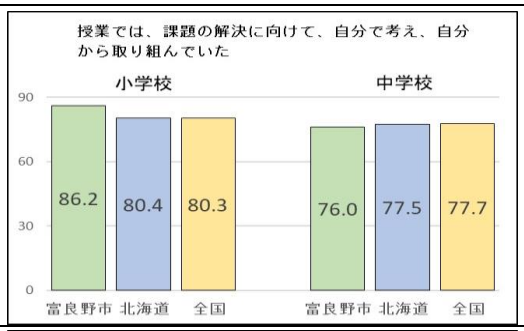
4　質問調査結果（児童生徒、学校）

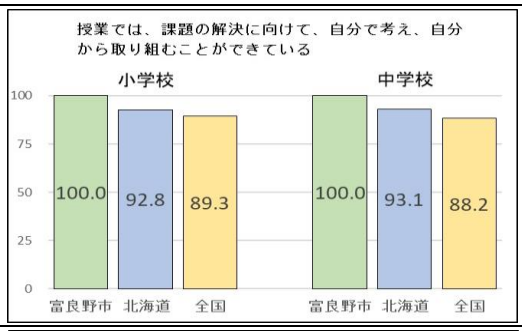
※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。

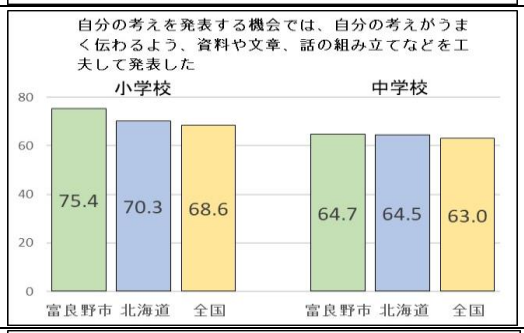
（1）　学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

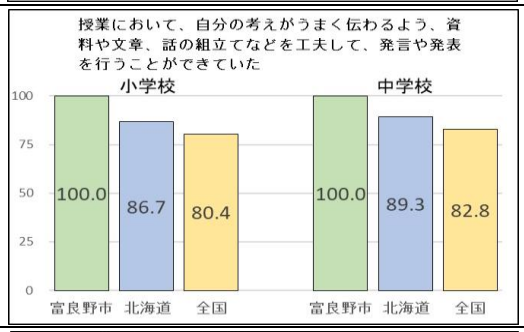
児童生徒質問調査	学校質問調査

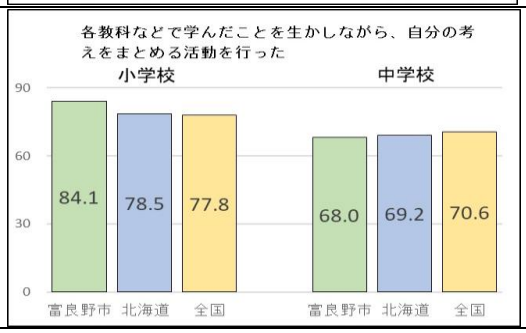
①　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する項目

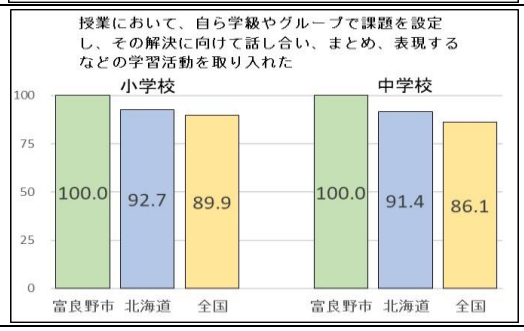




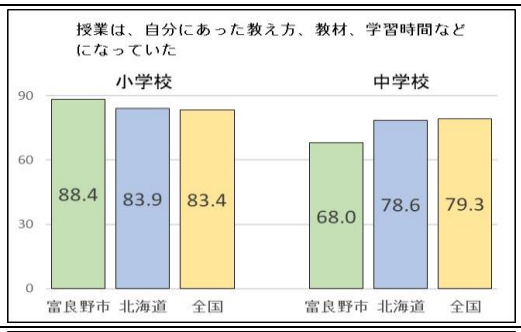


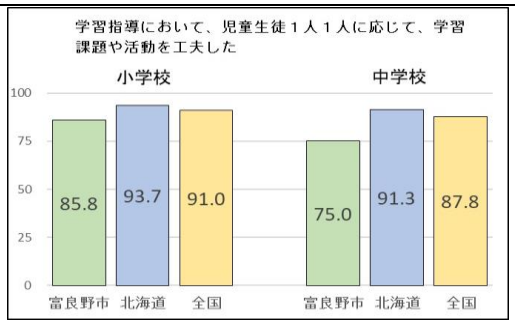


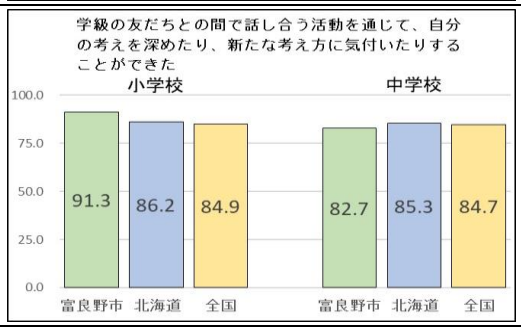


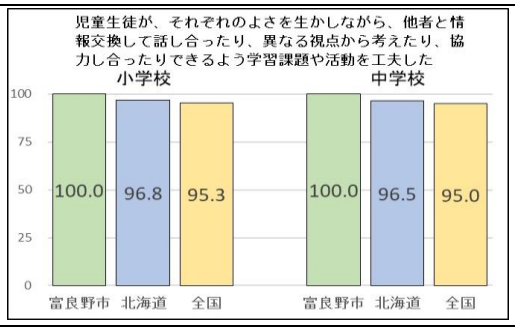


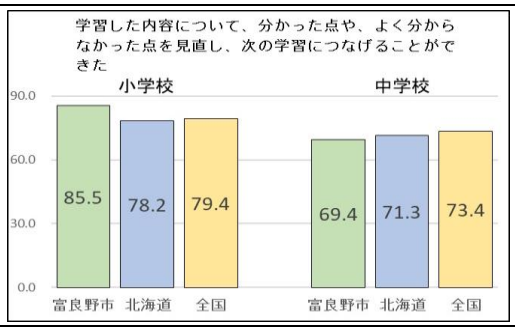
②　個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

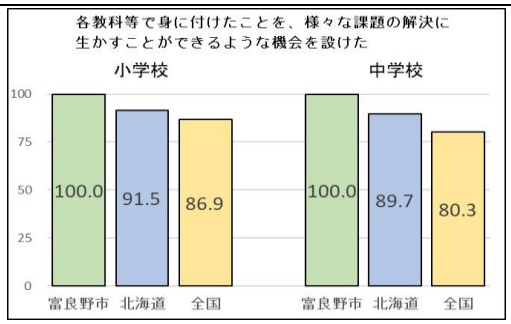






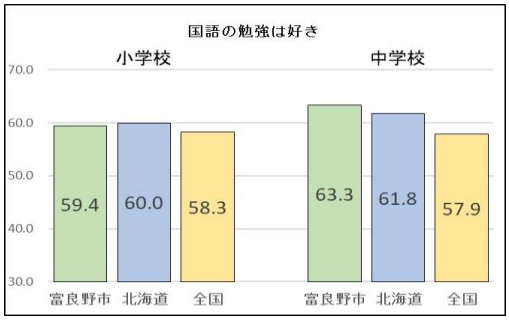


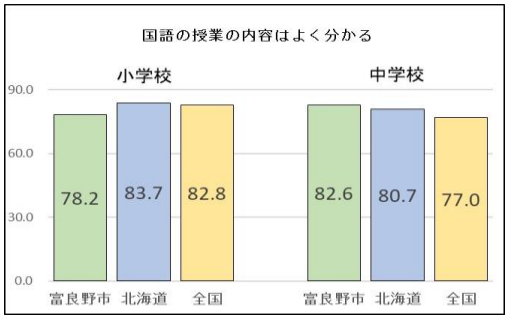




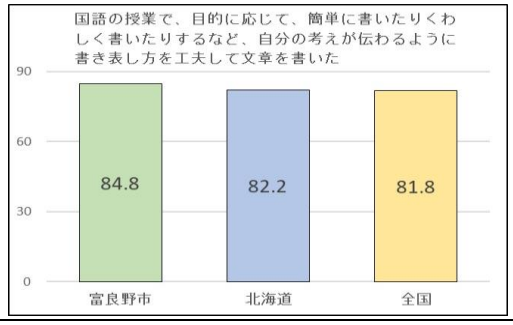
③　各教科の状況

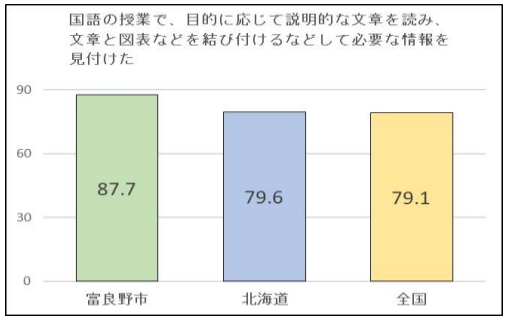
国語（児童生徒質問調査）



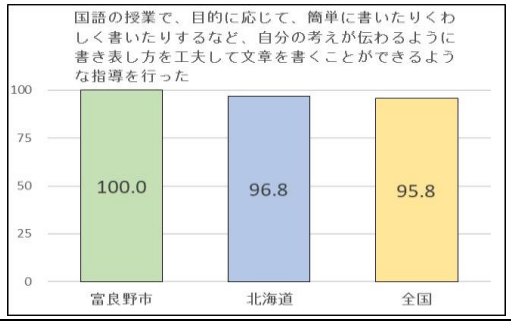


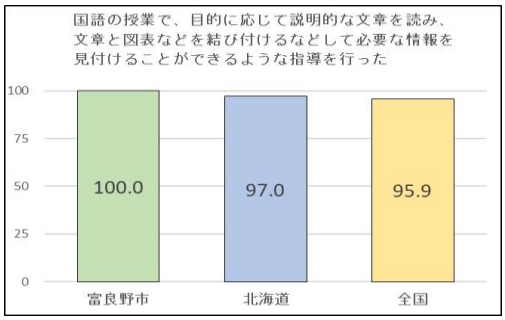
児童質問調査



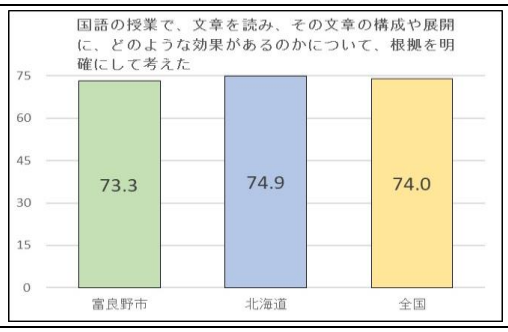


学校質問調査

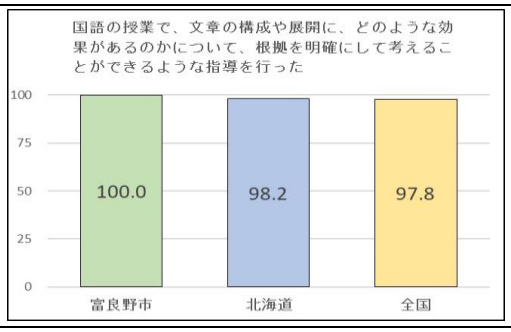


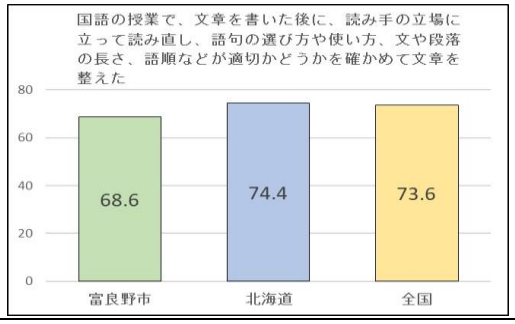


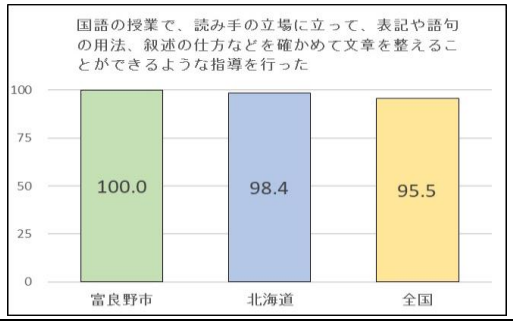
生徒質問調査



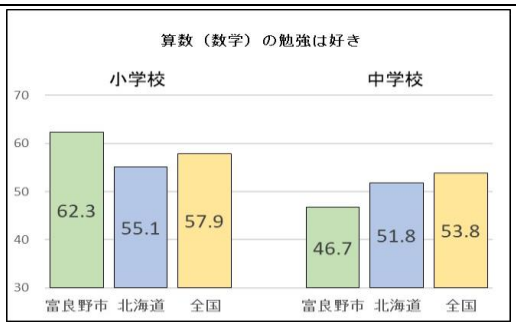
学校質問調査

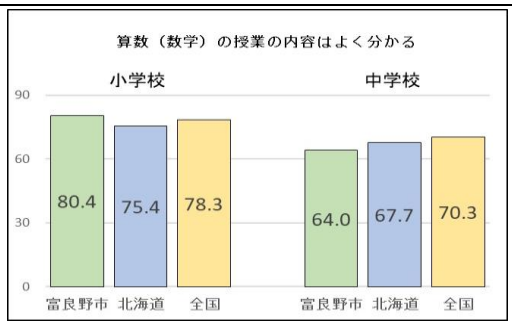




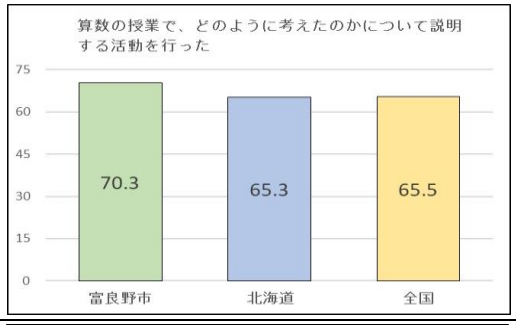


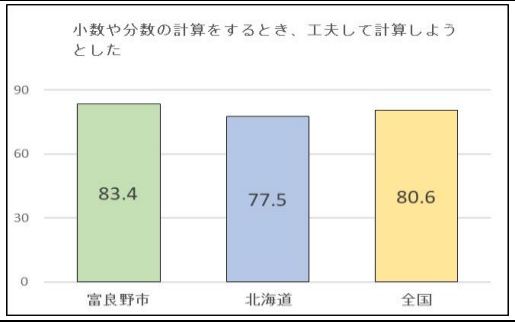
算数・数学（児童生徒質問調査）



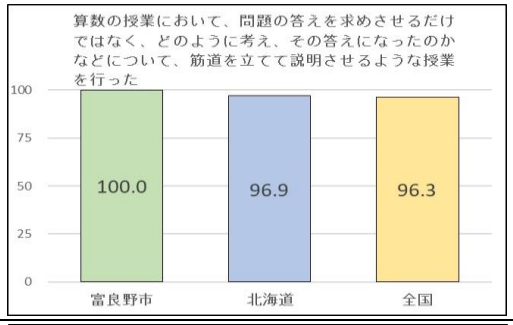


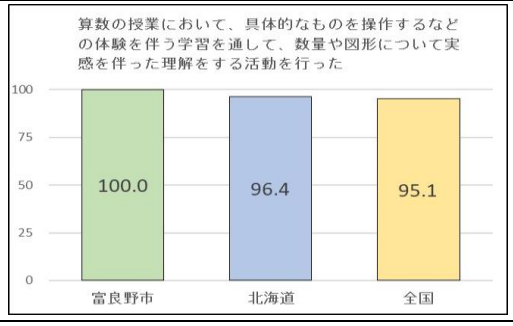
児童質問調査



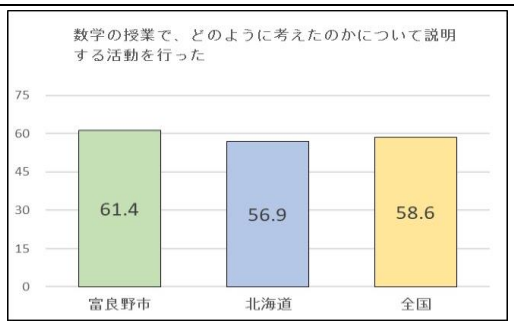


学校質問調査

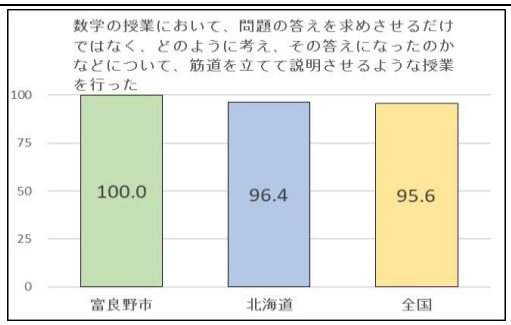


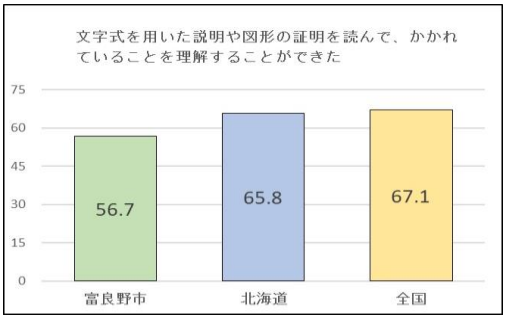


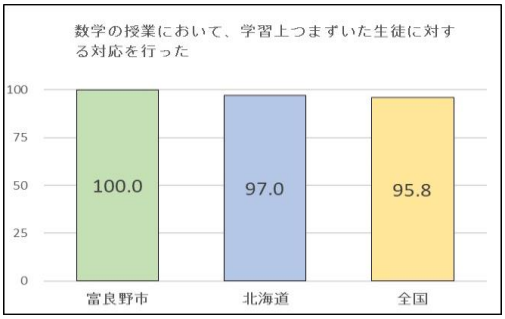
生徒質問調査



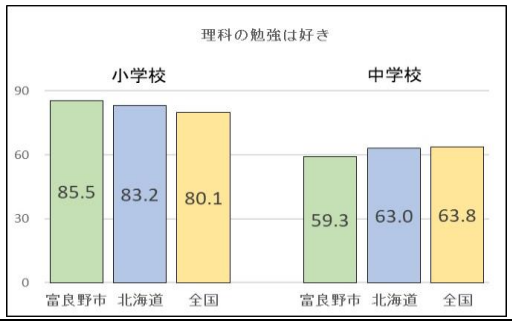
学校質問調査

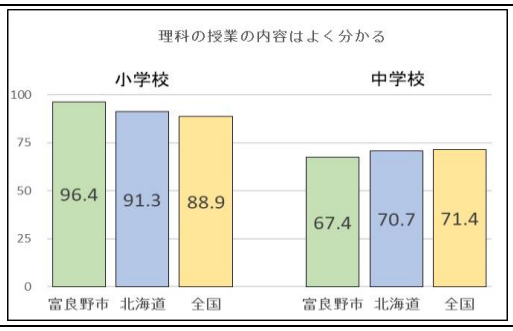




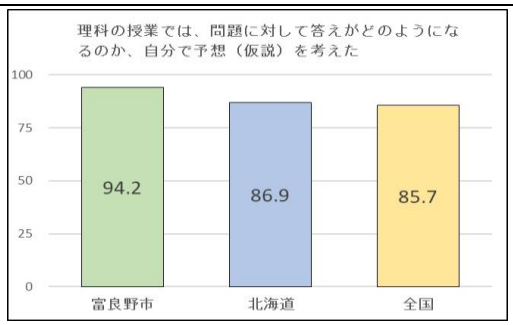


理科（児童生徒質問調査）

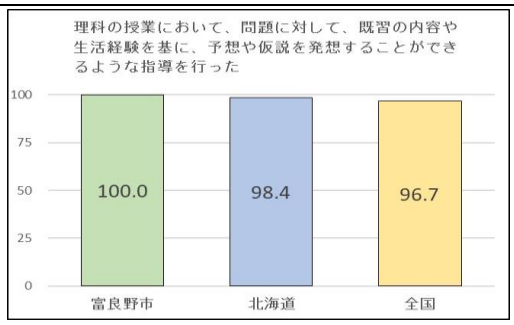


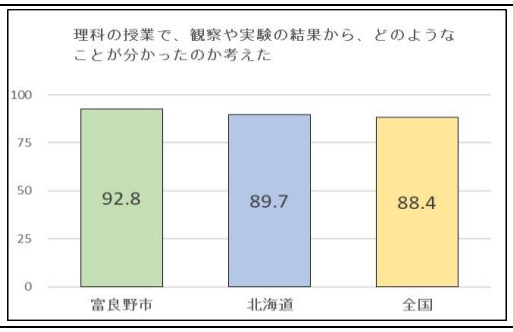


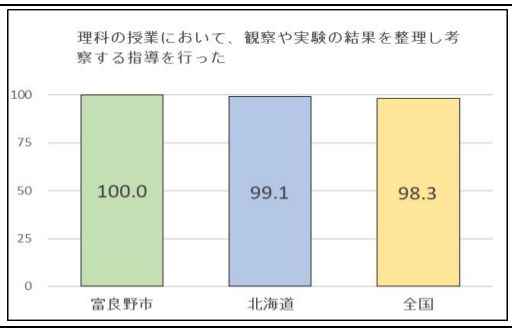
児童質問調査



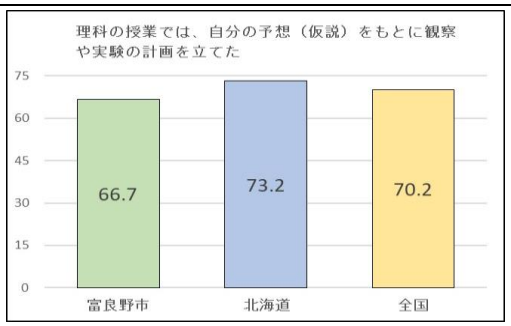
学校質問調査



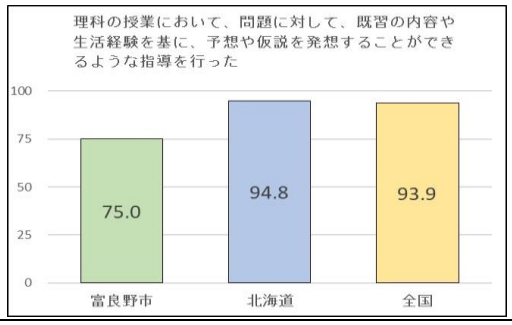


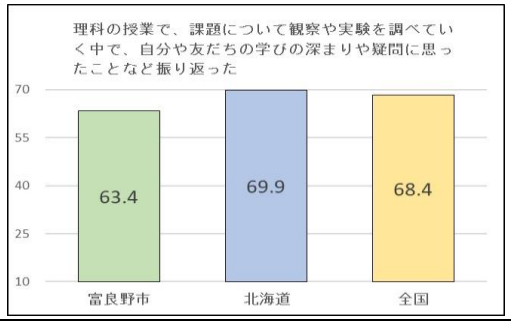


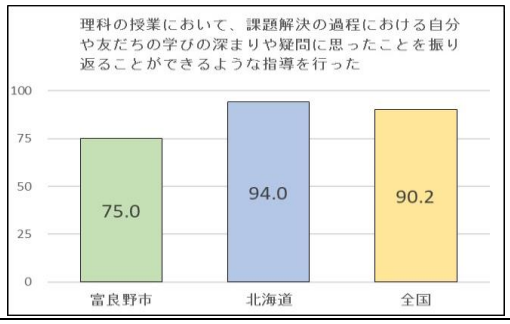
生徒質問調査



学校質問調査







＜分析結果のポイント＞

◇ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの項目では、肯定的な回答の割合が小学校において全国を上回るとともに、中学校においても昨年度より上昇するなど改善が見られており、市内小・中学校における授業改善の取組が進んだと考えられます。

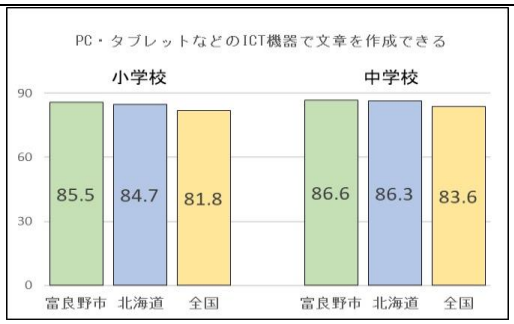
◇ 「個別最適な学び・協働的な学び」の視点からの項目では、児童生徒１人１人に応じた学習課題や活動の工夫、意図的に話し合う活動の位置付け等に取り組んだことにより、児童生徒が、自身の学びを実感することができ、肯定的な回答の割合が全国と同等または上回ったと考えられます。

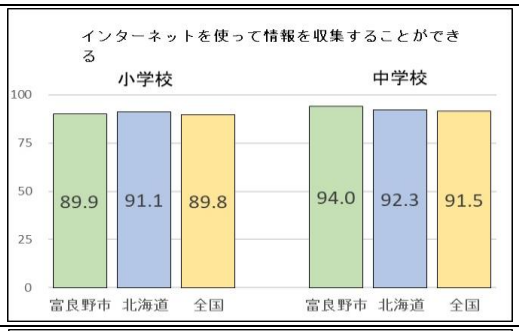
◆ 調査実施教科への興味・関心や学習内容の理解度の割合については、昨年度と比べて改善が図られたが、特に中学校数学への興味・関心が低いことから、説明に終始するのではなく、生徒の主体的な問題発見・解決を促す学習活動を位置付けるなど、引き続き授業改善を進める必要があると考えられます。

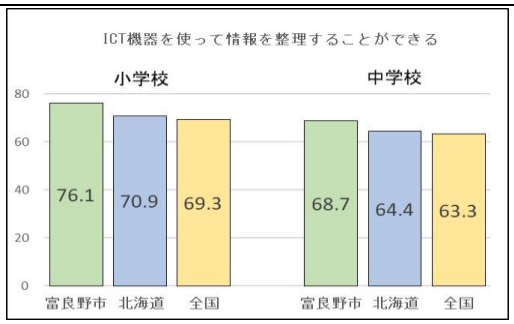
(2) ICTを活用した学習状況

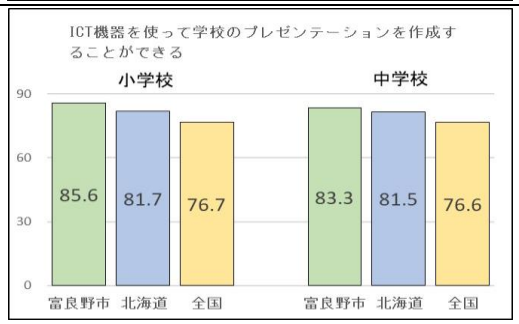
① 児童生徒のICT活用力

児童生徒質問調査

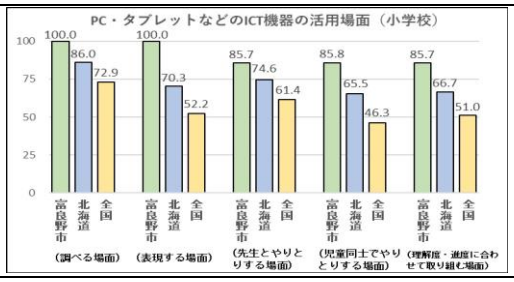


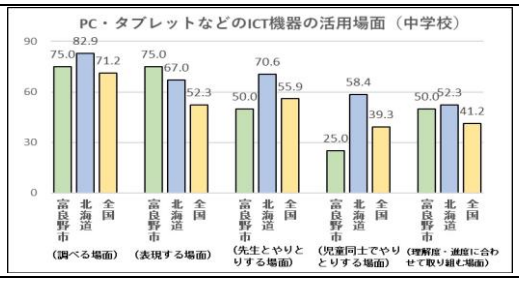






学校質問調査





＜分析結果のポイント＞

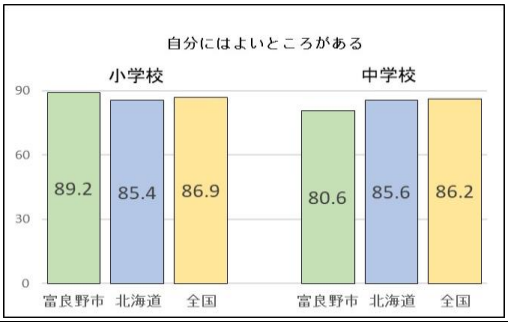
◇　各学校において、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、児童生徒のICT機器活用能力が向上したと考えられます。

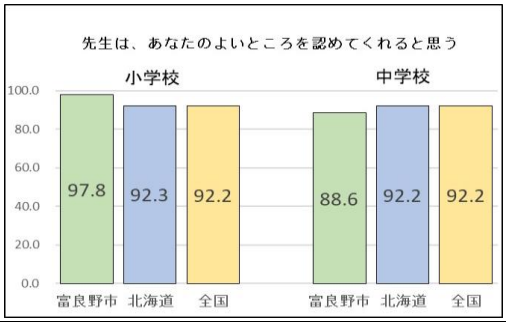
◆　授業におけるICT機器の活用場面について差が見られることから、児童生徒が各教科の見方・考え方を働かせられるよう、引き続きICT機器の効果的な活用について検討する必要があると考えられます。

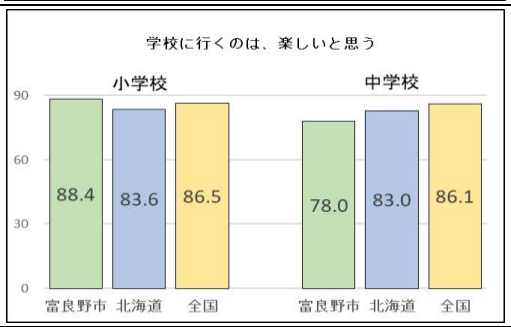
(3)　児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況、生活習慣、家庭学習　等

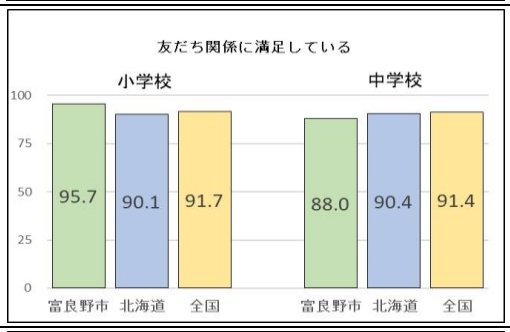
①　児童生徒の自己有用感、幸福感等

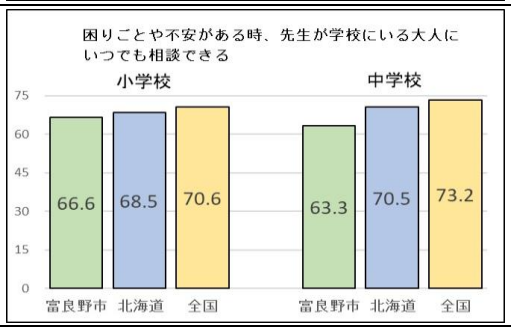
児童生徒質問調査

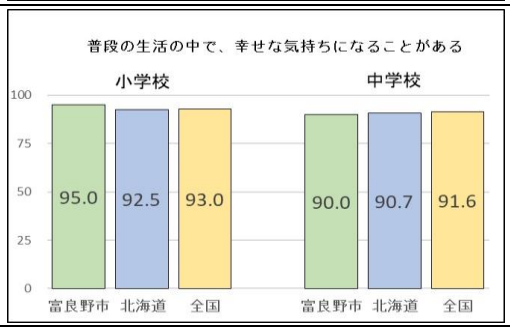






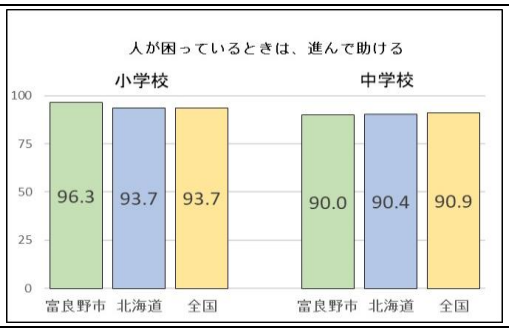




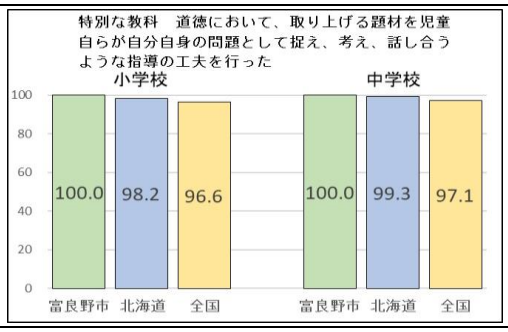


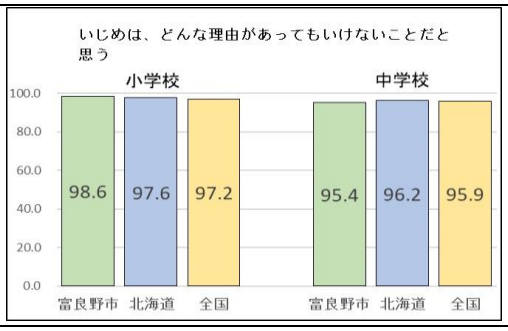
②　規範意識

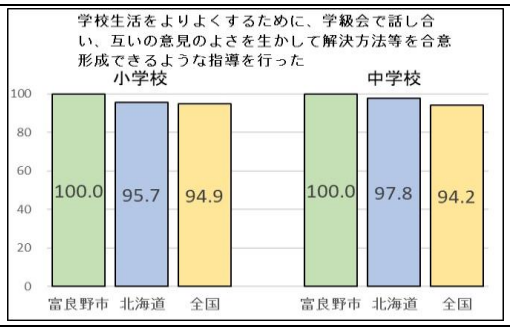
児童生徒質問調査



学校質問調査

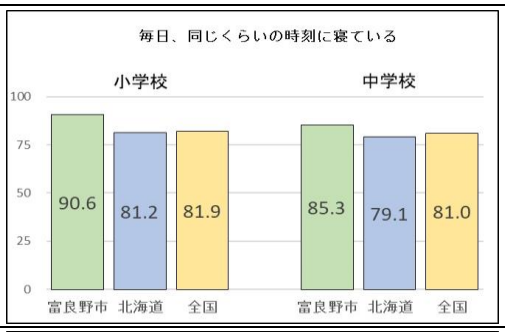


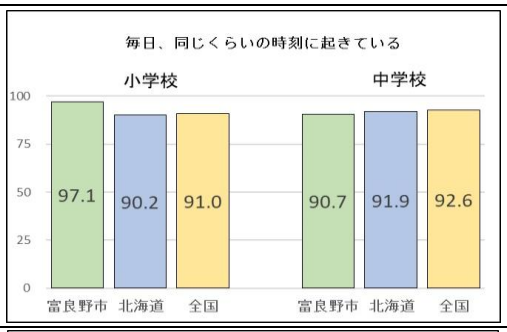


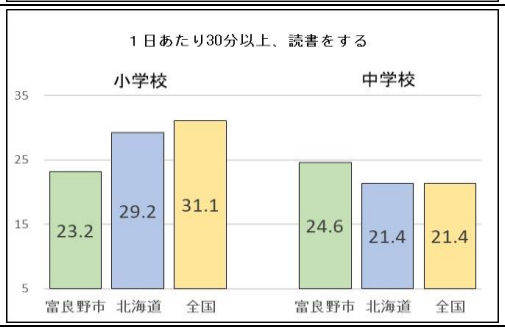


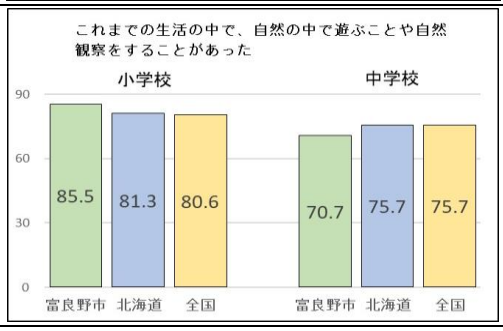
③　生活習慣

児童生徒質問調査



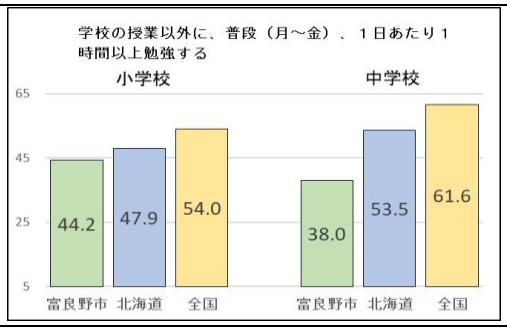


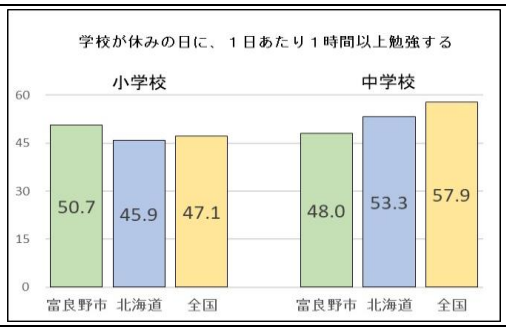




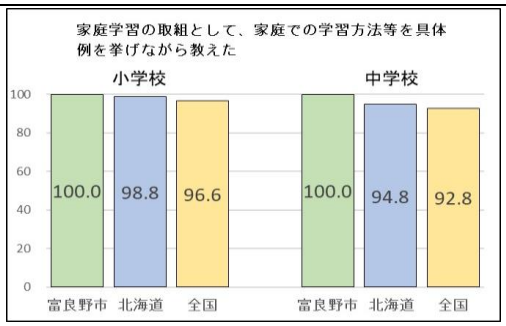
④　家庭学習

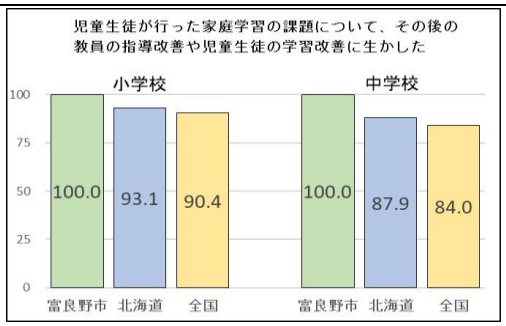
児童生徒質問調査





学校質問調査





＜分析結果のポイント＞

◇　各学校において、道徳の授業を中心に、児童生徒自らが自分自身の問題として考える機会を充実したことにより、「人が困っているときは、進んで助ける。」や「いじめは、どんな理由があってもいけない。」と回答した児童生徒の割合が高くなるなど、規範意識の醸成が図られていると考えられます。

◆　困りごとや不安があるときに、周りの大人に相談できないと回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに約４割見られることから、各学校においては、適切な児童理解を踏まえた関わり方や教育相談の在り方等について、再度、検討する必要があると考えられます。

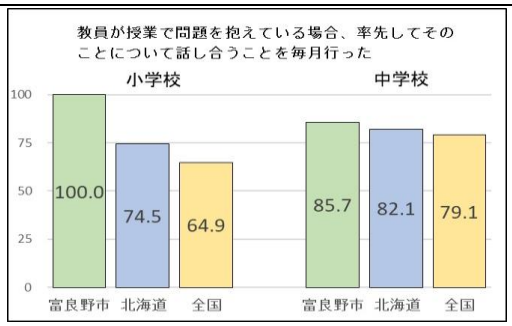
◆　基本的な生活習慣は、概ね身に付いているものの、読書時間が短い児童生徒や自然の中での活動が未経験の児童生徒が、一定数見られます。

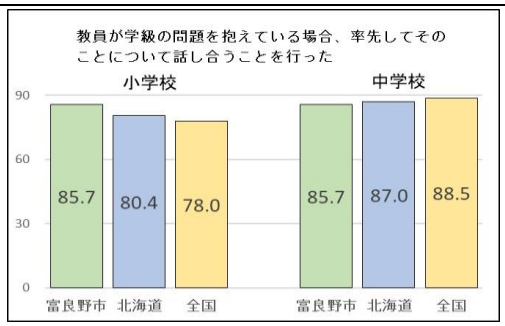
◆　小・中学校ともに、１日あたりの学習時間が１時間未満の児童生徒が多く見られることから、児童生徒の興味・関心や発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方等を促す指導が必要であると考えられます。

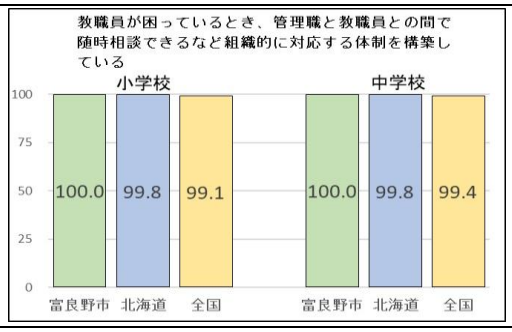
（４）　学校運営の状況　等

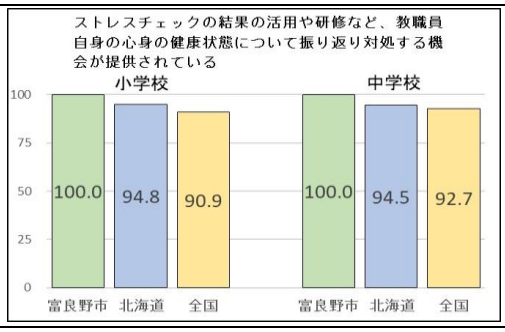
①　教職員の相談体制等

学校質問調査



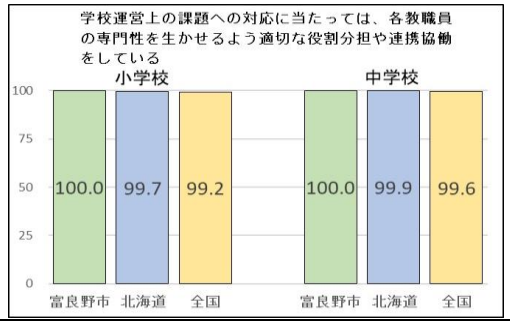


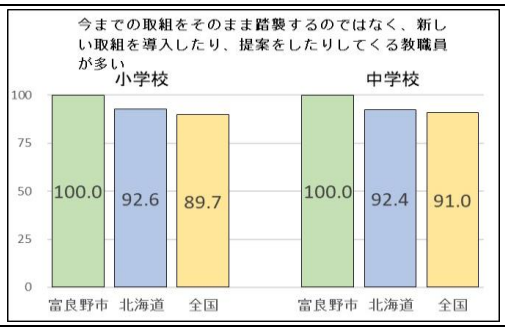




②　学校運営への取組

学校質問調査





5　改善のポイント

学校では、子どもたち一人一人の学びをしっかりと支え、
誰ひとり取り残さない教育を目指します

○　学校全体で学力向上に向けた取組を組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。

○　児童生徒に身に付けさせるべき資質・能力を明確にし、単元や題材などのまとまりを通して到達させるための手立てを講じ、１単位時間の授業を大切に実施していきます。

○　目的や意図に応じて、自分の考えを書いたり、事象の成り立つ理由を説明したりできる場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。

○　授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、実態に即した意図的な働き掛けをしていきます。

○　児童生徒が「分かった、できた」を実感できる授業づくりを進めるとともに、１人１台端末を活用して、児童生徒の多様な学習の状況や興味・関心に柔軟に対応していきます。

○　学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に支援するとともに、学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための家庭学習や課題を設定します。

6　保護者・地域の皆様へ

先行き不透明な社会の中、貧困やヤングケアラー等、様々な課題を抱える子どもが増加しており、子どもの人権に十分に配慮し、一人一人を大切にした教育が、ますます求められています。

これからの次代を担う子どもたちが、未来を切り拓いていくことができるよう、①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をとる力を身に付けさせる必要があります。

子どもの学ぶ力を支えるとともに、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、学校と家庭、地域が力を合わせることが極めて大切です。

子どもたちの意思や意欲を尊重することが、子どもの主体性につながりますし、できた満足感や様々な体験が、子どもの自信につながります。いろいろな経験から、多くの失敗を重ねることも大切です。時には失敗から新たに気付くこともありますし、失敗を乗り越える力が付きます。子どもたちが、失敗を恐れず挑戦できるよう、様々なことを経験できる機会をつくるだけではなく、大人が個性や特性の違いを認め、安心して挑戦できる環境をつくり、子どもたちが挑戦する姿を温かく見守るなど、家庭における学びの環境を整えていきましょう。